

# 子どもの携帯電話等の利用に関する調査結果について【ポイント】

平成21年5月15日  
文部科学省生涯学習政策局  
参事官(学習情報政策担当)付

## 1. 趣旨

子どもたちの携帯電話の利用実態や意識等について、児童生徒とその保護者及び学校を対象として調査を実施し、今後の取組推進のための基礎資料を得る。

## 2. 調査方法

無作為抽出した学校を対象として、調査票を郵送・回収。  
児童生徒と保護者に対しては、学校経由で調査票を配布・回収。

### 《調査対象》

- ・全国の小学6年生、中学2年生、高校2年生（合計：16,893人、回収率：61.8%）
- ・当該児童生徒の保護者（合計：16,893人、回収率：56.4%）
- ・全国の小・中・高等学校（合計：5,000校、回収率：43.5%）

《調査期間》平成20年11月21日～平成20年12月15日

## 3. 調査結果の概要

○結果掲載サイト ([http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/21/05/1266484.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/21/05/1266484.htm))

### (1) 子どもたちの携帯電話等の利用状況や意識

○利用頻度等は学年が上がるにつれ増加。個人差も大きい。

(例)携帯電話による1日平均のメール送受信件数

- ・「ほとんどメールは使わない」「10件未満」の合計：小6は74.8%、中2は38.0%、高2は41.3%
- ・「50件以上100件未満」「100件以上」の合計：小6は2.4%、中2は19.5%、高2は13.9%

○特に高2になると、情報発信手段としてもインターネットを積極的に活用。一方で、保護者は実態をあまり認識していない。

(例)自分のプロフの公開

- ・したことがある高2：44.3%
- ・自分の子どもがしたことがあると思う保護者（高2）：16.5%

○携帯電話をよく使う子どもは、生活面への影響も見られる。

(例)携帯電話による1日平均のメール送受信件数等と、普段の就寝時間

- ・午後11時までに就寝する割合（中2）は、1日30件以上の中2では25.3%、1日30件未満の中2では42.8%、携帯を持っていない中2では46.6%

○インターネットを使えない機種・設定にしているかフィルタリングを使用している割合は、小6：63.3%、中2：43.2%、高2：15.6%。なお、子ども本人名義での契約は、小6：4.4%、中2：10.2%、高2：24.7%。

○携帯電話を持っている子ども、よく使う子どもは、携帯電話を積極的に評価。

(例)携帯電話を「よいことが多い」「どちらかといえばよいことが多い」と思う割合

- ・携帯電話を持っている子ども：小6は75.8%、中2は82.3%、高2は83.6%
- ・携帯電話を持っていない子ども：小6は44.4%、中2は59.1%、高2は46.9%

## (2) 家庭の環境との関係

○家庭において携帯電話に関するルールがある場合、保護者が子どもの携帯電話の使い方に注意を払っている割合が多い。

(例)子どもに携帯電話の危険性や注意点を説明すること

- ・家庭でのルールがある保護者(小6) : 「注意を払っている」が 86.5%
- ・家庭でのルールがない保護者(小6) : 「注意を払っている」が 54.9%

○携帯電話に関する家庭のルールがある子どもは、利用マナーを身に付けている割合が多い。

(例)自分に来たチェーンメールを転送すること

- ・何らかのルールがある中2 : 「してはいけない」が 72.1%
- ・特にルールがない中2 : 「してはいけない」が 58.3%

○子どもの携帯電話の使い方に保護者が注意を払っている場合、その子どもに携帯電話の利用マナーが身に付いている割合が多い。

(例)友だちの住所や写真をインターネットの掲示板などに書き込むこと

- ・子どもの様子に気を付けている保護者の子ども(小6) : 「してはいけない」が 90.8%
- ・そのほかの保護者の子ども(小6) : 「してはいけない」が 75.9%

○家庭でのコミュニケーションが多い子どもほど、トラブルにあったときに保護者に相談する割合が多い。逆に、コミュニケーションが少ない子どもほど、誰にも相談していない割合が多い。

(例)トラブルにあったときに「保護者に相談した」割合(小6)

- ・家庭でのコミュニケーションが多い : 67.0%
- ・家庭でのコミュニケーションが少ない : 20.0%

(例)トラブルにあったときに「誰にも相談しなかった」割合(小6)

- ・家庭でのコミュニケーションが多い : 10.8%
- ・家庭でのコミュニケーションが少ない : 33.3%

○トラブルにあったときは、保護者や友だちに相談する割合が多いが、学年が上がると誰にも相談しないという子どもも比較的多くなる。

(例)「チェーンメールを送られた」割合

- ・保護者に相談する : 小6は60.2%、中2は32.6%、高2は19.0%
- ・友だちに相談する : 小6は29.1%、中2は34.9%、高2は36.3%
- ・誰にも相談しなかった : 小6は18.5%、中2は34.4%、高2は43.4%

### (3) 携帯電話の危険性等に関する学習経験との関係

○有害サイトやネットいじめの問題など携帯電話等の危険性についての学習経験は、「学校で教えてもらった」が各学年で最も多く（小6：52.8%、中2：79.9%、高2：78.4%）、小6は「保護者から教えてもらった」も多い（46.3%）。

○学習経験がある子どもは、フィルタリングを必要と思う割合が多い。

- ・学習経験がある小6：「必要」（条件付きを含む）が 75.1%
- ・学習経験がない小6：「必要」（条件付きを含む）が 62.5%

○学習経験がある子どもは、利用マナーが身に付いている割合が多い。

(例) 自分に来たチェーンメールを転送すること

- ・学習経験がある小6：「してはいけない」が 55.9%
- ・学習経験がない小6：「してはいけない」が 35.4%

○学習経験がある保護者は、子どもの使い方へ関心・注意を払う割合が多い。

(例) 子どもに携帯電話の危険性や注意点について説明する

- ・学習経験がある保護者（小6）：「注意を払っている」が 85.3%
- ・学習経験がない保護者（小6）：「注意を払っている」が 65.1%

○学習経験がある保護者の方が、携帯電話に関する必要な取組を求める割合が多い。

(例) 「フィルタリングの使用を徹底させること」

- ・学習経験がある保護者（小6）：59.2%、（中2）：55.5%、（高2）：38.9%
- ・学習経験がない保護者（小6）：37.8%、（中2）：32.3%、（高2）：24.9%

### (4) 学校における取組状況等

○携帯電話の利用に関する教育や、パソコンやインターネットに関する情報モラル教育に取り組んでいる学校が多い。

（小学校：89.0%、中学校：96.7%、高等学校：95.1%）

○学校非公式サイトやプロフなどの書き込みを、教職員等が定期的に確認している学校は、中学校、高等学校では5割近くに達する。

（小学校：20.0%、中学校：45.1%、高等学校：49.3%）

## (5) 携帯電話の利用頻度別による分析

以下の区分により子どもをグループ化し、関連設問との集計・分析を実施。  
〔携帯電話の一日平均メール送受信件数〕と〔携帯電話からの一日平均インターネット利用時間〕について

- ①メール50件以上またはインターネット3時間以上：「高」
- ②メール10件以上50件未満またはインターネット30分以上3時間未満：「中」
- ③メール10件未満かつインターネット30分未満：「低」
- ④携帯電話を所有していない：「なし」

○利用頻度が高いグループほど、インターネットを使えない機種・設定にしているかフィルタリングを使用している割合が少ない。

(例) フィルタリングの使用状況

小6： 高 56.3%、中 55.2%、低 67.0%

中2： 高 32.0%、中 41.9%、低 54.6%

高2： 高 9.2%、中 14.3%、低 26.3%

○利用頻度が高いグループほど、「特にルールは決めていない」と回答する割合が多い。

(例) 特にルールは決めていない

小6： 高 37.5%、中 16.7%、低 19.5%

中2： 高 38.0%、中 28.3%、低 24.0%

高2： 高 56.5%、中 54.7%、低 48.9%

○子どもに持たせている保護者の中では、利用頻度の高い子どもの保護者のグループほど、携帯電話を積極的に評価する割合が少ない。

(例) 「よいことが多い」「どちらかといえばよいことが多い」と思う割合

保護者(小6)： 高 42.9%、中 67.2%、低 70.9%、なし 38.7%

保護者(中2)： 高 50.6%、中 56.5%、低 65.8%、なし 36.1%

保護者(高2)： 高 62.4%、中 65.0%、低 70.4%、なし 41.7%

○利用頻度が高いグループほど、「チェーンメールを送られた」等のトラブル経験がある。

(例) チェーンメールを送られた経験がある

小6： 高 34.4%、中 32.7%、低 16.1%、なし 2.0%

中2： 高 75.4%、中 62.7%、低 43.7%、なし 16.1%

高2： 高 66.2%、中 57.8%、低 44.7%、なし 16.1%

(例) 特にトラブルにあったことはない

小6： 高 31.3%、中 50.7%、低 69.9%、なし 83.2%

中2： 高 14.6%、中 25.4%、低 44.3%、なし 66.4%

高2： 高 19.8%、中 26.3%、低 39.7%、なし 63.6%



## (6) 都市規模別による分析

○携帯電話の所有状況は、小学6年生と中学2年生については、大都市（特別区(東京23区)および政令指定都市)の子どもの方が所有率が高い。高校2年生については、都市規模による違いはほぼ見られない。

(例)携帯電話の所有状況

・都市規模別

小6： 大都市30.6%、郡部18.9%

中2： 大都市50.5%、郡部26.7%

高2： 大都市96.0%、郡部95.6%

○携帯電話を持った理由／持たせた理由は、大都市では「塾や習い事を始めたから」が多い。

(例)携帯電話を持った理由のうち「塾や習い事を始めたから」

小6： 大都市50.6%、郡部24.6%

携帯電話を持たせた理由のうち「塾や習い事を始めたから」

保護者（小6）： 大都市52.5%、郡部25.4%

○保護者に聞いたフィルタリングを使用していない理由は、郡部では「フィルタリングを知らなかった」「利用方法がわからなかった」が多い。

(例)子どもの携帯電話にフィルタリングを使用していない理由

・「フィルタリングを知らなかった」（保護者（小6））： 大都市15.9%、郡部40.0%

・「利用方法がわからなかった」（保護者（小6））： 大都市15.9%、郡部25.0%

## 4. 考察

○携帯電話をよく使う子どもは就寝時間など生活面への影響も見られる点に、留意する必要がある。

○携帯電話の利用に関して家庭のルールがある場合、子どもは利用マナーを身につけている割合が多い。他方で、ルールづくりが十分に行われていない家庭も見られる。また、保護者が認識している子どものインターネット利用経験と、実際の子どもの利用経験との間にギャップが見られる。これらのことから、家庭教育支援関連施策の活用等、取組の一層の充実が望まれる。

○小学校の段階から、携帯電話の利用について、適切な教育を行うことが望まれる。また、学校における情報モラル教育の一層の充実が望まれる。

○フィルタリングをしている子どもはしていない子どもに比べ、携帯電話に関わるトラブルを経験した割合が全般的に低くなっており、平成21年4月1日に施行された「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」の趣旨も踏まえ、フィルタリングの普及が期待される。